

図書報だより

題字 島根県教育委員会教育長

号数 第 19 号
発行日 昭和 47 年 8 月 1 日
編集発行 島根県立図書館
松江市内中原町 52
TEL (0852) 22-5725
印刷 (有) 高浜印刷所



▲ 47年7月水害後街にできたゴミの山 松江市大正町で
—— 島根新聞社提供 ——

使い捨て時代の箱舟

使い捨ての時代がそうである。それが現代文明であり、ガラクタを惜しんで空間をふさいでいるのは、罪悪の一つでもあるかのように説く人もいる。なるほど便利な機械や器具が次々開発され、手頃な（というわけに行かぬものも多いが）値段で買えるのであれば不細工な中古品に固執することはないのかもしれない。

読書も同じことだ。ベストセラーズが次々出現、世界の名著もたちまち翻訳されて店頭と並ぶ。日本はいまや世界有数の出版王国で、1年間に出版される本の数は雑誌もふくめると、国民1人あたり25冊にもなるという。文盲率が世界で最も低い日本ならではのことで、この限りではまさにご同慶の至り。GNP世界2位よりこれはむしろ誇っていいことかもしれない。

人々は多くの商品の中から好みのものを選ぶことができる。選択の自由も、選択に当たって必要とする情報もありあまるほどある。現代はそんな恵まれた時代なのだとはいえる。

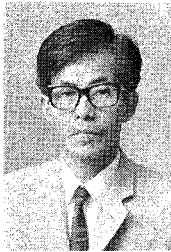
だが、といえば月並みだが、われわれはそのあふれんばかりの情報の中で、選択の自由をフルに活用できるだけのコンピューターを持っているのだろうか。ベストセラーを商業的に買って「積ん読」か、読んでもせいぜい書評欄と同じ感想しか持たず、たちまち次なる飢餓に襲われる。

現代のおびただしい出版物のうち果して何点が古典として残り、現代の生活用品の中のいくつかが21世紀の民芸博物館の中に座を与えられるのだろうか。「箱舟」はゴミと情報の洪水のために用意しなければならないのではないかと、47・7豪雨後に築かれたゴミの山の街で思ったことだった。

島根新聞編集委員 長 野 忠

「石見の素盞鳴尊と
御子たち」

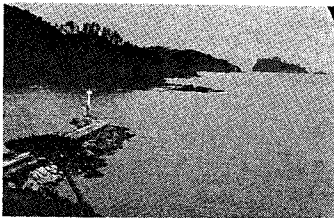
石村 禎久



海からの神話……私たちに前世ぜんせいがあったのに違いない。その証拠に、ときどき何千年か前のことにあこがれたりする。そこから神話が生まれたり、考古学が誕生したりした。昔々、私たちの祖先は山にわけ入って猟をしてくらしていた。山は生命いのちの支えだったから、山は生産の場だったから山を神としてたたえた。

主婦かみのことを山の神といたり、お内儀おさん（大神）といたりするのは、縄文時代じょうもんの山をあがめた名残りである。山の神は弥生時代やよいに入っても稲作の神様であった。5月の端午たんごに水田に降り、7月の半はん夏げには山へ帰る。ここでは田神たんごさんと呼ばれる。

「さんばいさん」の「さん」とはどんな意味があるのだろうか。天の神、地の神、産土うぶすな（氏神）の三神のことであり、また「水」をあらわしたことばでも



▲ 神話の五十猛海岸

ある。赤ちゃんを産む力を、この三神の働きとして「お産さん」ということばも生まれている。山を尊いものとした古代人は、青いうねりをたたえる海にも、遠いところから幸せを運んでくる神秘的な神の道だという観念があった。宇宙こんとんが未だ混沌としてタマゴの白味のような初めのとき、空と陸をわけ、国造りに働かれたのは龍神に変身した神様たちだった。龍神信仰は、こうした神話から、出雲の神有月に龍蛇信仰として受けつがれたし、邇摩郡仁摩町馬路にも乙見神社（祭神・大己貴命）に、出雲に負けないうくらいに古くから龍蛇信仰が行なわれていた。

海に向うから、すばらしい人がやってくるという古代人の夢を満たして、石見の海岸には古代の神様たちの渡来や活躍が、いまも生々として残り、語りつがれている。

素尊樹種将来伝説……およそ 4,500年前、高天原たかあまはらで乱暴を働いて追われた素盞鳴尊は、ソシモリ（朝鮮）の国へ行かれた。しばらくとどまっておられたが、住みなれた日本がよいというので、再び帰ってこられた。丸いお椀わんのような埴土の舟には、子に当たいそとけるのみことすさのおのみことつまずる五十猛命、抓津姫命、大屋姫命の三神とマツ、スギ、ヒノキの種を乗せて日本海環流を突っきって、初め杵岐いたきのさとの伊宅郷に立ちよられ、筑紫、長門の須佐・江津の神主・邇摩郡の温泉津・同郡仁摩の韓島からしまをへて大田市五十猛から浦（大浦）へ上陸された。

五十猛命はイタコソノ命、またイタキノ命ともいう。五十猛命は吐かれる息は春風のように和やかで、流される涙は暖かく、枯れた山を緑にされるし、木や草に花を咲かせる愛情のこもった神様だった。大屋姫は横穴を掘り、堅穴住居たてあなをつくることを教える、色々な道具を携えている神様、抓津姫は織り物が上手で、長い爪をはやしのお方だった。

江津の神主、神村は、そのころの地形が、いまと違って入海になっていたが、四神はここでまず一服しようとして上陸され、木の種をまいたり、住居のつくり方を土地の人に伝えたりした。素盞鳴命は、胸までたらした黒いヒゲをなでながら、ニコニコ見ておられた。

次にこられた五十猛の大浦は、韓崎（大岬）からや韓郷山ごうに囲まれて、美しい入江を描き、シケにも安全なところから、みなで相談、

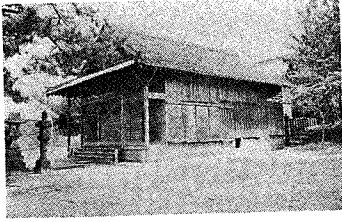
「ここで舟をおりよう」

と上陸して、しばらく過されることになった。五十猛命は赤マツの種をまいて、せっせと植林された。抓津姫命は仁摩町の宅野たくの栲の木から繊維をとり、近くの馬路まぢの神機かんばた（神畑）で織り物に励まれた。宅野は栲がたくさん生い茂っていたので栲野、つまり宅野という。

素盞鳴尊は1人、出雲へ向われることになり、

「この辺は岩がけわしいが、岩が美しいところだ。

住んでいる者たちも心がけが立派だ。どうか造林や暮らし生活のわざを教えてやってくれ」



▲ 五十猛神社

おうはま
という逢浜という地名も残っている。

間もなく五十猛命は素盞鳴命が紀州の熊野へ行かれるというので、二人の姫神とたもとをわかって五十猛を離れられた。出雲から備後へ出て熊野への道を志された。紀州ではスギの種をまかれたので、この付近を中心にしてスギが次第に繁殖した。

素盞鳴尊はのちに根の国（伯耆を含めた出雲国）で亡くなられた。五十猛命がおたちよりになったところには神社がまつられたり、土地の名になって残った。壱岐の^{いたきのさと}壱岐郷、命をまつた筑紫の筑紫神社、五十猛の五十猛神社、八東郡や仁多郡、

簸川郡には朝鮮より渡来されたという意味を含めた名前の^{からくにいたき}韓国伊太祗神社が7社もある。備後には板木と呼ぶ地名がある。

紀州には伊太祈曾神社、またいたきが^{いたきそ}なまった伊達神社、地名に伊太杵会郷がある。

五十猛命が、島根県にもっと長く住んでおられたら、もっともっとすばらしい赤マツやスギの産地になっていたのかもしれないと思うと残念な気がする。

さて抓津姫命はどこで亡くなられたのだろう。大田市の川合の里らしい。物部神社の近くに小さな古墳があって、お宮がまつてある。三瓶山をめざす県道の脇にひっそりと静まっておられる。ここでは栲の繊維で「ばた」を織られた神様だからというので、^{たくはたちち}栲幡千々姫命と呼ぶ。神社は^{かなめ}漢女神社となっているが、本当は「韓女神社」でなかったのではなからうか。大田市の大屋には大屋姫神社がある。

抓津姫と大屋姫の2神は、五十猛命を慕って紀州へも行かれたらしく、紀州に大屋都^{おおやつひめ}比売神社と都麻^{つま}都^{ずひめ}比売神社が鎮座している。

奈良の高松塚古墳の壁画発見は、わが国は中国より朝鮮の文化の影響が強かったことを改めて私たち

といわれ、五十猛の神別れ坂でしばしの別れを告げられた。尊が再びこの地に帰ってこられ、再会を喜ばれた

に印象づけたが、これらの樹種将来伝説は、高句麗文化よりはるかに古く朝鮮からの移住や文化の流入があったことをしのばせる。

ところで大田市や邇摩郡など石見地方は、石見左官で知られる出かせぎ地帯であり、女子は紡績工場へ出かけた。この伝説は古く、偶然かもしれないが、大屋姫の工人としての技術が左官に、抓津姫の織り物の技術が紡績工具に、いつしか血となって受け継がれているのかもしれない。

石見の中の出雲神話……石見海岸は韓国からの密航船がやってくるぶっそうな地帯として、警察では民間人の協力を求めるなど、不審船の出没に目を光らせている。

こうみると壱岐海峡で分流する暖流は、右へ右へとコースをとり、長門や石見の海岸を北上して、出雲にぶつかる大暖流と合して能登方面へ北上ということも、素人の考えで推定できる。

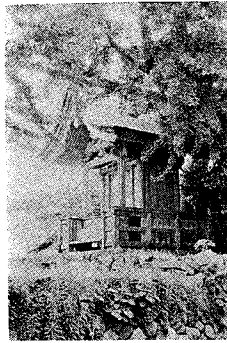
神話時代にさかのぼって、この海流は変わることなく日本と朝鮮半島とを固く結んでいるのだろう。

海流に乗って朝鮮とたびたび往来しておられた素盞鳴尊は初夏のある日、邇摩郡温泉津町小浜の海岸で、^{ささじま}笹島に矢竹がたくさん生い茂っているのに目をとめられ、「これは狩りをするのもってこいの竹だ」と竹を切ろうとされたら、波うちざわだったため、磯にうちよせる波が、尊の上着をびっしょり濡らした。傍らの

岩に濡れた上着を広げて乾しておられ、しばらくして岩のあるところへ帰ってみられると、たくさんの巻貝や^{ひる}蛭がくっついていて、腹をたてた尊は

「汚いぞ」とののしって貝の尻を切り、蛭の口をちぎって捨てられた。それからというものは、この近くの貝は尻切れだし、蛭は血を吸わないようになったという。尊がすばらしい方だと知った村の人たちは^{ころもがえ}衣更（衣替）神社を建立して尊を慕った。上着を乾かされたという石は巖島神社の境内に安置されている。毎年2月18日には衣更えのお祭りが行なわれている。樹種将来伝説を色どる、これは伝説のひとつまで、石見海岸の方々と同じパターンの伝説が語り伝えられているのは、神話の人の実在性をおわせている。

（大田市大田町） 一郷土史研究一



▲ 漢女神社

図書館資料紹介

映画フィルム

「わたしのおじいちゃん」 (カラー 30分)



小学4年の由加は海辺のまちで成長した。彼女は活発で男の子も一目置いており、剛たちは由加がいやがる

由加が物音に目を覚まし、仏壇の前で手を合わせている健作を見た。健作は「ばあさん、八重子も嫁に行ったぞ。行ってやりたかったんじやが、こんなじい様がいけば邪魔になるだけのような気がしてなあ……」と言っている。これを見た由加はたまらない気持になる。国津神社の大祭の日、青い空の下で、健作が直したみこしがままれていた。それを眺めながら由加は「大声はじいちゃんの元気な証拠だから、じいちゃんの声がどんなに大きくても、もうはずかしくない」と思うのだった。

彼女の祖父の口真似をしてウサ晴らしをしていた。今年70歳の祖父は耳が遠くなったせいで、声が非常に大きかった。下校時に雨が降って来た日など、迎えに来てくれた祖父の姿を見て、大声で呼ばれるのをきらって、ぬれるのもかまわず逃げ出した事もある。健作は自分が年寄りのため、いつも家族のものに迷惑をかけていると思い込んでいる。だから大阪にいる娘の結婚式にも、村のみこしの修理を引受けただからと言って行かなかった。その夜の事だった。

戦後の老人の座は孤独で淋しい。この映画を見ることにより、老人の心情の中に自己を投入して、としよりの悲しみ、淋しき、つらきなどを共感をもって理解していただけることでしょう。

読書会用図書紹介

○個性あるレジャー

—余暇時代をデザインする—

藤竹 暁著

われわれは現在、われわれの生活時間構造を大きく変化させるにちがいない可能性の前にいる。それは労働を中心とした生活とは別の生活を、われわれに提供しようとしているのである。余暇時代の到来が、われわれに意味しているものはきわめて大きい。新しい余暇を発見し、余暇時代をいかに生きるかを考えてみる必要があるのではないか。

(日本経済新聞社 280円)

○徒然草入門

—人生の楽しみここにあり—

本多 顕彰著

「徒然草」は、世捨人の書いた、ひとひねりひねった、異色の随筆であるという印象を一般にあたえているようだ。しかし「徒然草」の本質は、人生の無常を感じて、一刻一刻を大切に、求道に専念すべきことを説くにあり、たくましい人生観にもとずいた人生訓である。本書は、本多顕彰氏が、時代にふさわしい新しい兼好法師を再現したものである。兼好の人生観は、民族の生活の知恵でもある。

(光文社 330円)

○未来を生きる

—トインビーとの対話—

アーノルド・J・トインビー
若泉 敬著

本書は、毎日新聞紙上に昭和45年8月から12月まで97回にわたって連載されたものを再録したものである。本書でトインビーは広く深い歴史の知識に照らして過去をふり返り、また、不確かな将来にも目を向けて人類の未来の可能性を探っている。学問と教育、現代の課題、未来の展望、世界国家への道等8章から構成されており、特に若い方におすすめする。

(毎日新聞社 850円)

—— 著書と私 ——

その1

「出雲のわらべ歌」
「松江むかし話」
「出雲庶民生活記」
「出雲路のわらべ歌と古玩具」など

石 村 春 荘

与えられた題名は「伝説と私の書いた本の紹介」という事であるが柄にもなく「出雲のわらべ歌」「松江むかし話」「出雲庶民生活記」「山陰路のわらべ歌と古玩具」(出版順)等を書いたのは私が庶民の哀歎の中で暮して来てその生活の中に江戸時代(中にはもっと古くから)

と思われる民話、怪談、わらべ歌などが生きつづけているのを見聞して今の内に記録しておこうと思ったからである。

まづ思い出したのは祖母(明治45年83歳没)に私が5歳位から10歳位の間、機会ある毎に聞いたとんとん昔(民話)であった祖母の話はすべて善因善果説で独創を尊ぶという思想があった。

わらべ歌は妹に教えているのを、はたで聞いていて自然に覚えた。父は若い頃は肩がこってよく按摩さんを頼んだがその中のKというのは松江藩に仕えた武士の子息という事で話題は豊富であった。父はそうした話や見聞した事を丹念に毛筆で書いたものを残しておいてくれた。(昭和31年没83歳)ので役立った。わらべ歌を採集(昭和20年頃)している時は父も妹も元気で、おんじょつりの歌なども解説しながら歌ってくれた。父のうたった少年時代といえは明治15年頃だから古格をもったものである。おんじょつりの歌は各自が歌ったものを正しいと信じているのは滑稽である。

祖母は松江藩に仕えた木村というお台所頭の娘で寺子屋へ通い女大学の読める人であった。武士の娘

だからえらいというわけではないが民話やわらべ歌は豊富に知っていた。それに定安公の奥方付のお女中をつとめたので礼儀の正しい人でいつもきちんと座してひざをくずす等という事は絶対になかった。ある理由で私はこの祖母に育てられたのでいつしかロマンチックな青年になっていた。ちいばば育ちは3割下りといわれているが5割も6割も下がった人間になってまことに御先祖に相済まぬと思っている。(松江市殿町 72歳 松江市文化財審議委員)

—— 著書と私 ——

その2

「東出雲町夜話」

吉 儀 幸 吉

公 募 案 内

~~~~第5回島根県芸術文化祭文芸作品

公募要領きまる~~~~

県内在住者および県出身者を対象に次の要領で公募する。締め切りは9月16日(当日消し印有効)松江市内中原町52、島根県立図書館奉仕課文芸作品係まで送付のこと。

▶種目 詩、短歌、俳句、川柳とし、いずれも未発表の作品で詩は1人1編、短歌、俳句、川柳は1人3首(句)以内。作品は本人に限り、家族および他人名義での応募は認めない。もし入選後に判明した場合は入選を取り消す。

▶方法 詩は400字詰め原稿用紙2枚以内とし、その他は官製はがきを使用する。

はじめに種目名を朱書し、つぎに作品、末尾に応募者の住所、氏名(雅号)を記入する。

記入にあたっては、楷書ではっきりと記入すること。不明瞭で解説できぬものは審査の対象としない。

私の住んでいる東出雲町は昭和29年4月、旧揖屋・意東・出雲郷の三町村が合併して誕生した八東郡内の町である。

この地には古くからの神話・伝説・民話や、由緒ある行事がたくさんあり、また各界に大きな足跡を残した人物も数多く出ている。私はこうした話を小さい時から親や故老達に聞かされて成長した。黄泉比良坂の話、恵比須さんと鶏、美人塚、ホーランエンヤ、横綱陣幕久五郎、歌舞伎の市川女寅、宝満山の話等々その牧歌的な話は、夏は涼み台で冬は炬燵のまわりなどで語られ、幼い胸になごやかな夢を育てふるさとを愛する

芽を培ってきた。ただそれらの話が口から口へ伝えられるもので書き残されたものが一つもないため長い歳月の間には埋没しつつには消失してしまう運命にあることに以前から私は心を痛めていた。

一昨年3月、安来小学校を最後に37年間の教職生活を終り身軽な体になった私はこうした話を記録し1本にまとめておこうと考えた。この町で生れこの町で育ち、そしてこの町で24年間も教鞭を執ってきた私の、第2の人生において最初に着手すべき仕事はこれをおいてほかにないとも思った。

ところがその夏妻の急逝という生涯の一大痛恨事に遭い極度の無常感に襲われ約3カ月の虚脱状態が続いた。しかしこの仕事を完成することが亡妻の霊を慰めることにもなると考え勇を鼓してペンを握った。

吉儀茂(町社会教育委員) 門脇朝吉(町議会議長) 周藤国実(郷土研究家)の3氏にもお願いしてそれぞれの専門の立場から執筆してもらい、4人の共著として上梓したのが昨年の5月であった。A5版、190頁、頒価 680円。5号活字で印刷したため、老壮年層の町民から喜ばれ、1,000部刊行したのが20日余りで全部捌けてしまった。

(東出雲町教育委員)



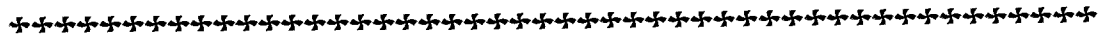
## 個人ブースの設置

一般閲覧室と小中学生室に

最近出版界の動向は、レコード、録音テープ、ソノシート等を併用した図書の出版がめだってきていますが、今後もさらに増加することが予想されます。一方利用者からの強い要望があるので、本年度はとりあえず一般閲覧室と小中学生室に各1基ずつ設置してその要望に応えることにしました。



▲ ブースを耳に“音の本”を聞く子ども



## レファレンスコーナー

(問) 大国さまの所持品(小ぶち、袋、俵)の由来 されるようになった。小ぶちを持っているのは工匠について

(答) 大国さますなわち大黒天は、古代インドではもともと戦いの神として崇拝されていたが、一方厨房(台所の意)の神としても祭られていた。

日本に伝えられた大黒天の信仰は後者の系統のもので、最澄が南中国の風習を延暦寺にもたらし、平安時代以後天台宗をはじめとする寺院の厨房にまつられるようになったという。

中世以後、神仏習合の風がさかんになるとともに大黒天は大黒様と音が似ているということで、日本神話の大国主神と同一視され、とくに七福神の一神として一般民衆に信仰

### 「文芸講演会の開催について」

人間性の啓発を図り、文化活動の振興に資するため、つぎの日程で文芸講演会を開催する予定にしております。多数ご参集ください。

講師には、文芸評論家の篠田一士(しのだはじめ)氏と、「虹」「うず潮」の原作者である劇作家の田中澄江(たなかすみえ)氏を招待することにしています。(演題は未定)

| 日         | 時       | 会 場        |
|-----------|---------|------------|
| 10月24日(火) | 13時~16時 | 浜田市民会館大ホール |
| 10月25日(水) | 13時~16時 | 島根県民会館大ホール |
| 10月26日(木) | 13時~15時 | 隠岐高等学校講堂   |

を意味し、袋には大判小判の金を収めて商業の繁栄をあらわし、農業の守り神として収穫した米俵の上にどっかりと座っている。このように大国さまの各所持品は代表的な産業である農業、商業、工業の守り神としての象徴であるといえる。

### 【解答資料】

世界大百科事典 14 平凡社 133P  
出雲大神 千家尊福著 大社教 45~46P  
日本社会民俗辞典 2 誠文堂新光社 866~867P  
風俗辞典 東京堂出版

423P

# 県読進協の 再建役員会開く！



本県の読書運動の推進母体である島根県読書推進運動協議会（略して県読進協）は、昭和35年に発足し爾來読書運動のかなめとしての後割を果してきましたが、遂年その活動も停滞状態となり反省期を迎えるに至りました。

時あたかも国際図書年の意義ある年を迎え国内でも、日本図書館協会をはじめ、関係機関がいろいろの記念行事を計画中であります。

このときにあたり県読進協では、現今の情報化社会に即応すべく、幅広い読書層の開拓とその浸透をはかるため、読進協再建役員会を去る6月29日県立図書館集会室において開催しました。

役員会では、先ず改正規約を審議し、——社団法人読書推進運動協議会本部との協力のもとに、県内における読書ならびに、出版に関係ある諸団体が更に連携して読書の普及をはかり、県民文化の向上発展に寄与することを約し、次のとおり今年度事業を決定しました。

1. 読書普及振興大会
  - 秋の読書週間事業の主行事として開催
    - ア. 文芸講演会
    - イ. 読書推進運動に功績のある個人および団体の表彰
    - ウ. 討論会
      - テーマ「婦人と読書」
2. 青少年読書感想文全国コンクールの後援
3. 機関紙の発行
4. 一日図書館長
5. 資料の配布

## 人事異動

◎お世話になりました

- 次長 西山 寛（教育庁社会教育課へ）
- 奉仕課長 坂本正紀（県総務課へ）
- 奉仕係長 引野 忠（県児童家庭課へ）
- 主 事 川本友子（県統計課へ）
- 主 事 補 藤原博志（教育庁社会教育課へ）

◎よろしくお願ひします

- 次 長 山本充彦（県企画課より）
- 総務課長 園山利治（出雲教育事務所より）
- 奉仕課長 藤岡大拙（図書館主幹）
- （奉仕係長事務取扱）
- 主 事 山本恵子（教育庁社会教育課より）
- 司 書 補 宮川しのぶ（採用）
- 〃 内田文恵（採用）

4月1日から

- 4月1日 松江市小中学校卒業文集展（4月中展示）  
18日～27日 ばく書休館
- 5月1日 講談社の絵本復刻資料展（5月中展示）
- 2日 加賀小学校26名見学
- 4日 鳥取県立米子図書館長来館視察
- 8日 出雲市立高浜小学校32名見学  
出雲市立第四中学校 140名見学  
飯石郡赤来町立谷小学校 9名見学  
仁多郡横田町立八川小学校40名見学
- 9日 安来小学校 200名見学
- 10日 松江市立大野中学校 104名見学  
東出雲町立東出雲中学校 152名見学
- 12日 子ども読書大会（大東町立塩田小学校）
- 15日 B M （八束コース）
- 16日 B M （平田、大社コース）
- 17日 B M （島根半島コース）
- 18日 B M （伯太コース）
- 19日 B M （多伎コース）
- 第1回中国文化講座
- 22日～24日 B M （那賀コース）
- 30日～31日 B M （邑智コース）
- 6月1日 ch ジャケット展（6月中展示）  
大原郡大東町立海潮小学校34名見学
- 2日 横田町立横田小学校69名見学
- 3日 友の会史跡めぐり（美保関）
- 5日～9日 B M（美鹿コース）
- 12日 城北小PTA図書館見学学習 30人
- 21日～23日 B M（横田・仁多コース）
- 28日 島根県立女子短期大学講師、学生4名映画鑑賞

— 定例行事 — 集会室にて開催

- 古典文学を読む会、毎月第2・4土曜日
- 中国文化講座、毎月第1・3金曜日
- 古文書を読む会 入門毎月第1土曜日  
中・近世毎月第3土曜日
- ステレオコンサートと文化映画の会  
毎週水曜日、16時から
- 図書館婦人教室、毎月第3火曜日

希望者は来館ください

# 新着資料の紹介

## 〔 図 書 資 料 〕

| 書名                   | 著編者                    | 書名                 | 著編者             | 書名                              | 著編者             |
|----------------------|------------------------|--------------------|-----------------|---------------------------------|-----------------|
| ○総記<br>・出版年鑑'72      | 出版ニユー<br>ス社            | ・食品微生物学            | 好井 久雄           | ・飯石郡誌                           | 飯石郡役所           |
| ○哲学<br>・屋敷神の研究       | 直江 広治                  | ○産 業<br>・日本塩業史研究   | 渡辺 則文           | ・島根県教育行政の<br>概要                 | 島根県教育<br>委員会    |
| ○歴史<br>・封建社会解体過程     | 津田 秀夫                  | ・維新期の街道と輸<br>送     | 山本 弘文           | ・島根県農業の動き                       | 島根統計<br>調査事務所   |
| ・研究序説                | 遠山 茂樹                  | ・放送の自由は死滅<br>したか   | 放送批評懇<br>談会     | ○レファレンス<br>・新聞語辞典 1972          | 朝日新聞社           |
| ・明治維新                | 大鹿 卓                   | ○芸 術               | サンチエス<br>カントン   | ・沖繩文化史辞典                        | 真栄田義見           |
| ・谷中村事件               | 米子図書館                  | ・ゴヤ論               | 塚谷 晃弘           | ・日本近代教育史事<br>典                  | 日本経済新<br>聞社     |
| ・伯耆、出雲郷土史<br>跡めぐり    | 全国町村会<br>文化 庁          | ・日本伝統産業史の<br>研究    | 中国放送<br>山本 享介   | ・谷津内田動物分類<br>名辞典                | 内田 亨            |
| ○社会科学<br>・全国町村会50年史  | 大内 兵衛                  | ・広島県の民謡            | 藤堂 明保           | ・水産百科辞典                         | 水産百科辞典<br>編集委員会 |
| ・日本民俗地図1、2           | Jバーンズ                  | 将棋庶民史              | 相浦 泉            | ・日本美術史年表                        | 源 豊宗            |
| ・世界経済図説              | S.メイスン<br>ノーボスチ<br>通信社 | ○語 学<br>・漢字まんだら    | 金重三子雄           | ○図書とカセットテ<br>ープ併用資料             | 與水 優            |
| ・ローズベルトと第<br>二次大戦上、下 | 伊東俊太郎                  | ・NHK 中国入門          | J. E. マ<br>ンション | ・中国語の話し方                        | グッドマン           |
| ○自然科学<br>・科学の歴史上、下   | 堀 淳一                   | ・英語慣用語句ハン<br>ドブック  | 岸上 慎二           | ・グッドマンの初級<br>英会話                | "               |
| ・レーニン賞受賞の<br>人と業績    | Pユアール                  | ・現代フランス文法          | 金 思輝            | ・グッドマンの中級<br>英会話                | 矢吹 勝二           |
| ・現代科学思想事典            | 宮本 忠雄                  | ○文 学<br>・枕草子必携     | ソール・ベ<br>ロー     | ・日本文化の英会話                       | 旺文社編            |
| ・地図のたのしみ             | 宋 応星                   | ・朝鮮文学史             | ケシ・イム<br>レ      | ・入門英会話 カセ<br>ット8本               | W.L.クラーク        |
| ・中国の医学               | 小林 健男                  | ・現代をつかめ            | マルグリット<br>・デュラス | ・アメリカ国語教本<br>入門編 初級編<br>中級編 上級編 | W.C. Isaaco     |
| ・現代の異常と正常            | ヴァインセント・<br>スカーリー      | ・エリジウムの子供<br>たち    | 尾原 昭夫           | ・愛誦 英詩選                         | 松本 亨            |
| ○工 学<br>・天工開物        | 梅田 晴夫                  | ・タルキニアの小屋          |                 | ・続 英語会話入門                       | 山田 広明           |
| ・公害と企業の責任            |                        | ○郷土資料<br>・日本のわらべうた |                 | ・カセット 新ドイ<br>ツ語練習帳              | 小林 正            |
| ・近代建築                |                        |                    |                 | ・フランス語の話し<br>方                  |                 |
| ・時 計                 |                        |                    |                 |                                 |                 |

### 利用案内

#### 複写サービス

当館の資料を複写希望の方は2階の中央カウンターに申し込みしてください。

B 4 1枚30円 B 5 1枚20円  
— 実 費 —

その場で複写いたします。

